

## 男女共同参画と介護・健康

### 介護の担い手

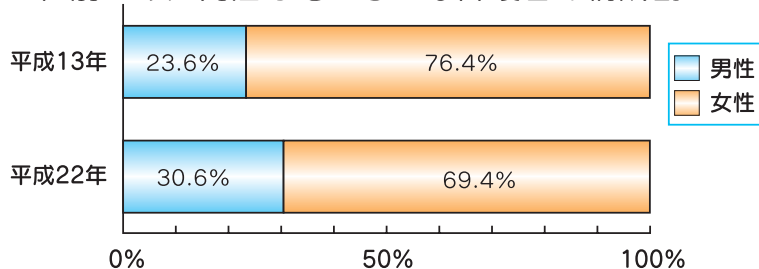


現在の高齢社会において、要介護（要支援）認定者は増加傾向にあります。そこで今回は、介護の担い手について考えてみましょう。

国の調査によると、平成22年3月末における要介護（要支援）認定者数は、全国で485万人にのぼっています。

（厚生労働省「平成21年度介護保険事業状況報告書（年報）のポインツ」より。）

性別にみた同居している主な介護者の構成割合



厚生労働省「国民生活基礎調査の概況（平成13年、平成22年）」より

上の調査結果を見てみましょう。同居しているおまな介護者の構成を性別の割合で見ると、女性の方が高い

割合を占めています。

従来の、「介護は女性の仕事」という性別役割分担意識が残っていることが、原因の一つと言えます。

しかし、一方では、男性の介護者が少しずつ増加している傾向にあります。今後も、女性を中心とした介護にとられず、男女がともに積極的に介護に参加できるような、家庭内での役割分担や、地域、行政の取り組みが求められています。

### 地域における健康運動の充実

また、今後更なる高齢化率の上昇が予想される中で、男女がともに個性と能力を十分に発揮し、明るく元気に過ごしていくためには、一人ひとりの自主的な健康づくりを心掛けることが大切です。

本市では、地域における健康づくり事業の充実に取り組んでいます。行政区や校区公民館に働きかけ、地域の公民館活動としての自主的な健康教室の実施を支援しています。

健康教室は、市が実施する「健康運動リーダー養成講座」を受講した地域住民が中心となり、行政区長、区役員などと協力して行われています。参加者は地域住民の方々です。

そこで、実際に地域で健康教室に取り組みされている宝城南区長の茂山正樹さんにお話を伺いました。

### 小郡の「男女」ひとびと



茂山 正樹 さん

茂山さんは、平成22年4月から宝城南区長としてご活躍されています。

現在、宝城自治公民館では、毎月第2・4水曜日に、健康教室「宝城南区健康わいわいクラブ」を実施しています。茂山さんは平成21年度に健康運動リーダー養成講座を受講された後、リーダーの一員として、教室を実施しています。参加者は20〜25名で、男女の数はほぼ同数だそうです。教室では、健康体操やダンベル運動などで体を動かしながら、男性も女性もわきあいあいと、楽しく参加されているそうです。

茂山さんは「この教室の目的は、宝城南区民の健康づくりを推進することだけでなく、参加者との会話の中から、地域の介護や健康に関する情報・様子をお互いに知ることでも、目的のひとつです」と述べられています。

また、これから高齢化がさらに進んでいくにあたり、男性も女性も関係なく地域のことを考え、現状を把握し、地域と市が協働していくことが大切だ、と話してくださいました。

茂山さん、ありがとうございました。



このように健康づくり事業を実施する行政区が増えはじめています。市民のみなさんと市の協働による豊かな地域づくりを、今後も進めていきます。